

愛知県感染症情報

平成 11 年第 41 週 (10 月第 2 週)

(コメント)

先生方からのコメントにマイコプラズマ肺炎が目立ちます。
これから冬にかけて流行するおそれのある A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及び突発性発疹にも注意してください。

(先生方からのコメント)

- ・ 渥美町の一保育園にてムンプスが流行していますがまだ他への広がりはありません。
(田原町 かわせ小児科)
- ・ マイコプラズマ肺炎 8 才男
マイコプラズマ肺炎様の児が時にあり
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
- ・ マイコプラズマ肺炎 5 才女
カンピロバクター腸炎 2 人 (7 才、10 才の兄弟)
5 才男虫垂炎と思わせる症状で来院サルモネラ 07、病原性大腸菌 0127a、015 共に VT(-)、黄色ブドウ球菌の 4 種類が検出されました。
(岡崎市 深田小児科)
- ・ マイコプラズマ肺炎 6 才女
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ カンピロバクター 2 人 (2 才、9 才)
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 百日咳の乳児は、DPT 未接種者
(幸田町 とみた小児科)
- ・ インフルエンザ様経過の 1 才児
(東海市 東海市民病院)
- ・ 溶連菌感染症やや増加傾向か？ (兄弟例あり)
幼児ヘルペス歯肉口内炎時々みられます。
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)

- ・ マイコプラズマ肺炎の男児が多く見られます。
カンピロバクター腸炎 2才男
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ 感染性胃腸炎 3才女サルモネラ 1名
(春日井市 かちがわ北病院)
- ・ マイコプラズマ肺炎 13才女
(立田村 谷本医院)
- ・ マイコプラズマ肺炎 13才男
(新川町 三輪医院)
- ・ ムンプスの小流行あり(1クラス6~10人欠席)
水痘も小流行。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ ヘルペス口内炎 3才男
手足口病 2人(流行している保育園があるようです)
(江南市 みやぐちこどもクリニック)

(1~3類感染症の発生状況)

発生はありません

(全数把握の4類感染症の発生状況)

発生はありません

第39週(9月27日~10月3日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、突発性発疹、ヘルパンギーナなどの疾患が例年の同時期に比べ定点当たり報告数がかなり多くなっている。流行性角結膜炎は、愛媛県で定点当たり4.29、宮崎県で3.50、鹿児島県で3.33、佐賀県で3.00と報告が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

1999 年 8 月 20 日号 (74 巻 33 号)

愛知県新興再興感染症対策協議会 (文責 磯村)

ヨーロッパのレジオネラ症: 93 年から欧州各国から一定方式で報告集計。98 年に患者報告数 1, 442 例 (97 年比 +82 例)、188 死亡例 (死亡 13.1%)。人口比は 98 年が 4.3/百万、デンマークが最多 (20.4/百万)、以下ドイツ、スイス、スウェーデン。男女比は 2.5~3:1。33%は地域で、14%は病院で、21%は旅行先で感染。9 カ国 165 事例の集団発生のうち 14 事例が冷暖房水供給 (うち病院が 9 事例)、5 事例が冷房、旅行先の感染は欧州圏内が多くホテルや客船など (トルコが最多) で診断は菌培養 (22%)、尿中抗原検出 (33%)、血清抗体陽転 (18%) など。

インフルエンザ: 99 年 8 月。オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ; いずれも A 型 H3N2。

8 月 13 - 19 日届出。コレラ: ブルンジ、コンゴ、ギニア、タンザニア、香港 (輸入例)、ロシア (輸入例)。ペスト; カザフスタン。

1999 年 8 月 27 日号 (74 巻 34 号)

ポリオ根絶計画: ポリオ 2 型野生株根絶へ。1960 年代、ポリオ生ワク普及につれて世界における 2 型の流行は激減し 70 - 80 年代には途上国だけとなり 90 年にエジプトで、97 年にはアフガニスタンとパキスタンで、98 年にはナイジェリアで最後の野生株発生、99 年には唯一の発生地はインドのガンジス河流域となっている; ウタルプラデッシュ州とビハール州 (人口 2 億 1 千万)。以前は各種の遺伝子型の 2 型ウイルスが分離されたが 98 年以降は単一の株の流行となっていて、インド政府と各州政府は 99 年 10 月から 4 回に及ぶ住民絨毯爆撃的接種、特に戸別訪問による一斉接種を計画中 (注 1. ポリオ 1~3 型で 2 型がワクチン効果が最良で 1 型や 3 型の流行は他の途上国でも現在発生中。注 2. ウタルプラデッシュ、ビハール両州の WHO 指定ポリオ検査機関は愛知県衛研・名古屋大学など関係各先生の協力でサンジャイガンジー医学研究所が指定されています)。

インフルエンザ: 99 年 8 月。チリでは B 型 (北京株) 流行。

8 月 20 日 - 8 月 26 日届出。コレラ: ガーナ、マダガスカル、ニジェール。ペスト: 米合衆国、モンゴル。

1999 年 9 月 3 日号 (74 巻 35 号)

トルコの地震による避難民の間での感染症対策として水汚染による腸管感染症と住民集中化による気道感染症発生に関して WHO は専門家を派遣、対策立案、実行中。

ベネズエラのシャガス病: サシガメが媒介する寄生虫; クルーズ・トリパノソーマの感染症。米合衆国テキサス以南アルゼンチン・チリまで南米一帯に分布。急性期の発熱・発疹、リンパ節炎、顔面浮腫の後数年して慢性期に心筋炎、巨大結腸症、末梢神経障害など発病し予後不良。1970~80 年代には農村部から都市部に広がり、血銀の輸血用血液が地区によっては 3%~53%感染している。一方で南米南部諸国では媒介昆虫対策で最近 8 年間で 75%の患者数減少。ベネズエラでは数種のサシガメが媒介昆虫であり、犬が最大の保有動物である。同国政府は残留性殺虫剤を常在地家屋に散布し 65 年には汚染家屋が地域により 2~80%であったのが 97 年には 0~4%、患者発生数も最近 5 年間で 50%減、小児では 90%減となっている。

ウズベキスタンの犬のエキノコッカス症: 犬やキツネが宿主の寄生虫症。犬の糞便中の虫卵の経口感染で数年~数十年以上後に発病し肝 (最後は肝不全)、肺、さらに脳内に嚢腫を形成。ウズベキスタンの犬のエキノコッカス保有率はスルカニ河地区で 34.1%、サマルカンドで 30%、シル河流域で 21.2%、ブハラで 19.8%となっている。患者届出数は 1988 年の 387 例が 97 年の 1, 130 例と増加中。

アフリカトリパノソーマ症 (睡眠病): 「アフリカトリパノソーマ症のコントロールとサーベイランス」が WHO から出版された。

インフルエンザ: 99 年 8 月。アルゼンチンで A 型と B 型、オーストラリアでも A 型と B 型、フィンランドでは A 型が発生中。

集団発生: ハンタウイルスによる腎症候性出血熱。ユーゴ・コソボ地区のアルバニア国境地帯居住 19 歳女性。ウイルス学的に確認。ポリオ。アフガニスタン北部、クンドゥズ地区で 26 例。1 型野生株主体で 3 型野生株も分離。アフガニスタン内戦による予防接種率低下によると思われる。

8 月 27 日 - 9 月 2 日届出。コレラ: マダガスカル、マラウイ、香港 (輸入例)。